

## 河野雅臣

歯科医師、博士(感染制御学)、東京医療保健大学大学院非常勤講師、感染制御・感染対策コンサルタント  
 連絡先: masaomikono@gmail.com  
 Blog: www.masaomikono.com

キーワード: 新型コロナウイルス感染症, ワクチン, 歯科医療

## ワクチンと歯科医療

## 歯科医療従事者がやるべきこと、やってはいけないこと

## はじめに

わが国においては2021年2月17日から、新型コロナウイルスに対するワクチン接種が、医療従事者が先行する形で開始された<sup>1</sup>。

ワクチンの目的は、接種した個人における感染症の発症や重症化、死亡リスクをできる限り減らすことと同時に、コミュニティ全体での感染症の蔓延を防ぐことにあり、できる限り多くの住民が接種することが望ましい。

このため、専門家で構成されている「新型コロナウイルス感染症対策分科会」では、国に対して「国は、国民に対して、ワクチンの有効性及び安全性についての情報を提供するなど、的確で丁寧なコミュニケーション等を進め、幅広くワクチン接種への理解を得るとともに、国民が自らの意思で接種の判断を行うことができるよう取り組む」ことを求めている<sup>2</sup>。

このようにわが国では、ワクチンを接種するか否か、という判断は国民1人ひとりの自己決定権を尊重する姿勢を採っており、たとえばワクチン接種を強要する(あるいは接種させない)ことは自己決定権の侵害となる。一方、誤った情報や偏った情報をもとに判断をしてしまうような事態が発生することもまた、国民の自己決定権を侵害することになる。

このため、国や厚生労働省では、ワクチンの有効性や安全性に関する情報、あるいは副反応が疑われる事例について、積極的な情報公開を行っている<sup>3</sup>。

したがって、本稿においてはワクチン接種の是非については言及しない。本稿の目的は、ワクチンを接種した患者あるいは接種の判断を予定している患者に対し、歯科医療従事者が国民の自己決定権を侵害することなく、適切な対応を行うための指針を提示することにある。

## 1. 有害事象と副反応

ワクチン接種後に生じた好ましくない反応を有害事象という。因果関係は問わないため、たとえば接種後に階段から落ちた、車に轢かれた、雷に打たれた、などの事象も有害事象である。一方、因果関係が判明しているものを副反応という。個人レベルでは因果関係は証明できないため、大人数を対象にしたランダム化比較試験等で明らかにされる(表1)<sup>4~6</sup>。これまでアレルギー反応<sup>7</sup>を除き、口腔内に出現する副反応は世界的にも報告されていない<sup>8</sup>。

## 2. 有害事象を確認したとき、どうする?

本稿が掲載される5月号(2021年5月10日発行)の時点では、高齢者や

表1 ワクチン接種後の副反応。

ワクチン名	BNT162b2 <sup>4,5</sup>	mRNA-1273 <sup>6</sup>
開発企業	ファイザー	モデルナ
治験参加者数	43,000人	30,000人
感染予防効果	92%	-
発症予防効果	94~95%	94%
重症化予防効果	89~92%	100%
副反応	接種部位の痛み, 倦怠感, 頭痛, 悪寒, 筋肉痛, 関節痛	接種部位の痛み, 頭痛, 倦怠感, 筋肉痛, 関節痛, 悪寒

基礎疾患を有する人を対象とした接種が進んでいることを期待している。すでに受診しているかもしれないが、今後ワクチン接種歴のある患者が歯科医院を受診することになる。その患者が「先生、一昨日ワクチンを打ったんですよ。そしたら昨日になって口内炎が3つもできたんですよ！これってワクチンの副作用\*でしょう？」と不安とともに症状を訴えて受診したら、あなたはどのようにしますか？

### 3. 歯科医療従事者がやるべきこと

繰り返しになるが、目の前の患者における個人レベルの事象は因果関係が証明できないため、各種研究により副反応と報告されない限り(厳密にはそれでも個別の事例については副反応とはいきれないが)、うかつに副反応であるとはいってはいけなく、副反応ではないともいうことができない。あくまで副反応の疑い、として対応する必要がある。

副反応が疑われる事象を確認した場合、予防接種法第12条1項の規定にもとづき、PMDA(医薬品医療機

器総合機構)に報告する義務がある<sup>9</sup>。この義務はワクチンを接種した医師に限らない。歯科医療従事者もその対象である(報告の方法についてはPMDAのホームページ<sup>10</sup>を参照)。

また、副反応が疑われる事象を確認した患者を、確実にワクチンを接種した医師に診察してもらう必要がある。もし患者がワクチンに関して正しい知識を有していない医療機関を受診してしまうと、その患者は正しい情報を得られず、最善な治療を受けられなくなる恐れがある。また、こうした事象を「副反応だ」と称して、いわゆる“反ワクチン”運動に利用されてしまう恐れもあり、ワクチン行政の足枷となることが強く予想される。確実に受診につなげるため、ワクチンを接種した医師への紹介状や電話連絡、自院でのフォローアップを行うことが望ましい(図1)。

### 4. 歯科医療従事者がやってはいけないこと

- ・有害事象が発生し、不安を感じている患者におざなりな対応をすること。
- ・有害事象の口腔内症状の写真を

「これは副反応かもしれない」、「これは副反応でしょうか？」などとSNS等に投稿すること。

これらの行動は、当該患者のみならず社会全体に間違ったメッセージを発信してしまう結果につながり、結果として患者の自己決定権を侵害することにつながる恐れがある。

PMDAへの副反応が疑われる事例の報告、紹介状の作成や電話連絡、再診でのフォローなど、煩雑で気の進まない業務であることは確かである。しかし、もし歯科医療従事者が発信した間違ったメッセージにより接種を見送った人が、後々不利益を蒙り、その間違いに気がついたとき、われわれは患者からはもちろん、場合によっては医療関係者からもおおいに信頼を損ねることになる。

### まとめ

今般のコロナ禍において、われわれ歯科医療従事者が貢献できたことは正直多くない(このこと自体はCOVID-19という疾患の特性上仕方のないことであり、決して問題ではない)。そのなかにあっても、国民が正しい情報をもとに自己決定権を行

\* : 正しく「副反応」と表現する患者ばかりではないと考えられる。

「これまで世界で200万人近く接種されていますが、口のなかには、アレルギーを除き、ワクチンと関連した症状がでた、という報告はありません。なので、この口腔炎がワクチンと関係している(=副反応である)可能性はきわめて低いと思います。たまたま、口内炎ができたタイミングが重なったんでしょうね。

ただ、ワクチン接種後に口内炎ができた(=有害事象)ことは事実なので、これは**関係機関に報告**します。大袈裟に思えるかもしれませんが、関係がなさそうでも報告するように**法律で定められている**のでね。

症状の経過はこちらでも観察しますが、接種した病院の先生にもみてもらいましょう。**こちらから直接電話で連絡しておきますがよろしいですか？ 紹介状も書きますから必ず受診してくださいね**」

図1 自院でのフォローアップの例。

使するために、歯科医療従事者にもできることがある、ということを今回お伝えした。

なお、筆者自身は新型コロナウイルスのワクチンは、有効性および安全性は非常に信頼でき、接種によるデメリットは許容範囲内であると考えており、接種を強く希望していることを付記しておく。

本稿は2021年2月23日(火・祝)に開催された沖縄県歯科医師会が開催した「令和2年度かかりつけ歯科医推進事業『歯科医療における新時代の感染対策』」での筆者の講演内容の一部を抜粋し、加筆・修正したものである。なお、記載事項はすべて本稿の校了時点(2021年3月15日)の情報に基づくものである。

#### 参考文献

1. 厚生労働省. 新型コロナワクチンの接種状況. [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine\\_seshujisseki.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_seshujisseki.html)(最終アクセス日2021年3月15日).
2. 内閣官房. 新型コロナウイルス感染症対策分科会「新型コロナウイルス感染症に係るワクチンの接種について」. 令和3年2月9日. [https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/ful/bunkakai/wakuchin\\_sesyu.pdf](https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/ful/bunkakai/wakuchin_sesyu.pdf)(最終アクセス日2021年3月15日).
3. 厚生労働省. 新型コロナワクチンについて. [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine\\_00184.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_00184.html)(最終アクセス日2021年3月15日).
4. Polack FP, Thomas ST, Kitchin N, Absalon J, Gurtman A, Lockhart S, Perez JL, Pérez Marc G, Moreira ED, Zerbini C, Bailey R, Swanson KA, Roychoudhury S, Koury K, Li P, Kalina WK, Cooper B, Frenck Jr RW, Hammit LL, Türeci Ö, Nell H, Schaefer A, Ünal S, Tresnan DB, Mather S, Dormitzer PR, Şahin U, Jansen KU, Gruber WC, C4591001 Clinical Trial Group. Safety and Efficacy of the BNT162b 2 mRNA Covid-19 Vaccine. *N Engl J Med* 2020 ; 383 (27) : 2603-2615.
5. Dagan N, Barda N, Kepten E, Miron O, Perchik S, Katz MA, Hernán MA, Lipsitch M, Reis B, Balicer RD. BNT162b 2 mRNA Covid-19 Vaccine in a Nationwide Mass Vaccination Setting. *N Engl J Med* 2021. DOI : 10.1056/NEJMoa2101765.
6. Baden LR, El Sahly HM, Essink B, Kotloff K, Frey S, Novak R, Diemert D, Spector SA, Roupael N, Buddy Creech C, McGettigan J, Khetan S, Segall N, Solis J, Brosz A, Fierro C, Schwartz H, Neuzil K, Corey L, Gilbert P, Janes H, Follmann D, Marovich M, Mascola J, Polakowski L, Ledgerwood J, Graham BS, Bennett H, Pajon R, Knightly C, Leav B, Deng W, Zhou H, Han S, Ivarsson M, Miller J, Zaks T, COVE Study Group. Efficacy and Safety of the mRNA-1273 SARS-CoV-2 Vaccine. *N Engl J Med* 2021 ; 384(5) : 403-416.
7. 厚生労働省. 新型コロナワクチンの副反応疑い報告について. [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine\\_hukuhannou-utagai-houkoku.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_hukuhannou-utagai-houkoku.html)(最終アクセス日2021年3月15日).
8. Riad A. Oral side effects of COVID-19 vaccine. *Br Dent J* 2021 ; 230(2) : 59.
9. 厚生労働省. 予防接種法に基づく医師等の報告のお願い. [https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou20/hukuhannou\\_houkoku/index.html](https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou20/hukuhannou_houkoku/index.html)(最終アクセス日2021年3月15日).
10. 独立行政法人医薬品医療機器総合機構. 予防接種法に基づく副反応疑い報告(医療従事者向け). <https://www.pmda.go.jp/safety/reports/hcp/prev-vacc-act/0003.html>(最終アクセス日2021年3月15日).